

カンボジアの教室から見たもの

学校法人三重高等学校三重中学校

3年 林 千乃

私は少し前に、カンボジアの農村部にある学校をいくつか訪れた。そこで自分の同じくらいの年の学生に出会ったことで、税への関心が以前より高まった。学校では、机や椅子、教科書が足りず、校内の設備が不十分な様子を目にした。ふと自分の学校を思い浮かべてみる。机や授業に必要な教科書はもちろん、勉強する環境も不自由ないものだ。なぜ国によってこんなにも勉強空間に差が出るのか疑問に感じた。そして私は、教材、校内設備の不十分さの原因の一つとして税が関係していることに気がついた。

日本では国公立に関係なく義務教育中は教科書は税金により国から無償で給与されている。また、校舎やエアコン、実験道具なども生徒一人ひとりが直接お金を払っているわけではない。以前は「税」と聞くと何か難しく、とても身近なものには思えなかった。カンボジアの学生たちと出会った経験は、自分が毎日授業を受けることができるのは「税金」のおかげなのだと改めて実感するきっかけになった。また、カンボジアの商店街に行った際、値引き交渉を行い、もとよりも安い値段で商品を買うことができた。このことを日本に帰ってから改めて考えると、あれらの商品に消費税はなかったのかと不思議に思った。私が提案した価格に対して、それが税込みとも税抜きとも言われなかった。カンボジアには税制度が無いのかと思い調べたがどうやらあるらしい。しかしNGOによると、ここは一八〇ヶ国中、政府の腐敗認識指数が低い国の一つだそう。税制度があっても、それがきちんと子どもたちの教育支援にあてられているとは限らないことを知った。

私たちはこんなに整えられた環境で勉強できるにも関わらず、学校に行くのがめんどくさい、勉強したくない、とたまに思ってしまう。彼らは空調のない教室、ささくれた机、ガタガタの椅子、教科書。でも、私の知る日本の学生と全く違う顔をしていた。先生に指名された時、全員で声を合わせて音読する時、教科書を楽しげに、そして大切そうに眺める学生たち。「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」何度も見覚えのある言葉が頭をかすめた。一つひとつのクラスから元気な声と勉強に対する前向きなエネルギーを感じた。勤勉なあの学生たちには、より快適な勉強空間が必要だと感じると同時に、税金によって成り立っている私たちの学校生活に強くありがたみを覚えた。

全ての子どもが教育を受けることができる世界の第一歩としてまず私たちができるのは、自分が毎日学校に通えるのは当たり前でないことを知り、より暮らしやすい社会を作るために、税金をどんなところで使っていくべきかを考えてみることだろう。